

令和5年度 第2回 城北小学校運営協議会



令和5年6月8日（木）

浜松市立城北小学校

第 2 回 城北小学校運営協議会

令和5年 6月8日

14:30~16:00

会議室

開会 開催要件（委員の過半数の出席）確認 <司会：教頭 記録：中村>

1 会長挨拶（岩井会長）

2 校長挨拶（校長）

3 議長の選出（出席した委員の中から互選）

4 前回会議録確認・・・資料1

5 熟議 <議長：岩井会長>

（1）「やさしい」心を育てるために・・・資料2

①「いのちについて考える日」の実践について

（2）学校評価の評価項目について・・・資料3

6 報告 <司会：教頭 記録：中村>

（1）学校支援CDから

①5月の城北小サポーター活動実施報告

②「コミュスク便り（5月号）」「城北小サポーターQ&A（6月）」発行について

7 連絡

（1）次回

令和5年10月19日（木）13:30~14:00授業参観

14:00~15:30学校運営協議会

（2）次回の熟議内容の確認

（1）「やさしい」心を育てるために

①城北小学校いじめ防止基本方針について

（2）学校がかかえる課題と改善策

閉会

<確認>

①さくら連絡網登録について

②「やらまい會」について

学校運営協議会委員

会長	いわいく み こ 岩井弘美子
副会長	かわしま まさゆき 川嶋 正幸
委員	なかがわ かつお 中川 勝夫
委員	たかやなぎ みちこ 高柳 理子
委員	なかがわ ともひろ 中川 智博
委員	しみず ひろと がっこええん 清水 裕人 (学校支援CD)
委員	かみうえ り え がっこええん 紙上 理恵 (学校支援CD)
委員	やまぎし えり 山岸 絵里
委員	もり さとこ 森 聖子

オブザーバー

静岡大学	おおのきりゆうたろう 大野木龍太郎
はままつ青少年の家	いのした しゅんすけ 井下 俊輔
高台協働センター	かわにし ひろあき 河西 博昭
高台協働センター	やまぐち ともあき 山口 朋章

学校

校長	やまうち としひろ 山内 登志弘
教頭	こじま すみか 小嶋 澄華
C S 担当教職員	すずき ひさこ 鈴木 久子
C S ディレクター	なかむら あさみ 中村 朝実

浜松市教育委員会

教育総務課	すずき ようこ 鈴木 陽子
-------	------------------

学校運営協議会 年間計画

令和5年4月1日～令和6年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	令和5年 4月27日 木曜日 14:30～16:00 会議室	(1) 学校運営の基本方針について ①「やさしい」心を育てるために (2)いじめ防止等のための基本的な方針 (3)夢育やらまいか事業に対する意見書について 報告 (1)サポーターとつくる特色ある学校づくり年間計画 (2)学校コーディネーターから ①4月の城北小サポーター活動計画 ②やらまいかについて	
2	6月8日 木曜日 14:30～16:00 会議室	(1)「やさしい」心を育てるために ①「いのちについて考える日」の実践について (2)学校評価の評価項目について 報告 (1)4・5月の実践について	
3	10月19日 木曜日 14:00～15:30 会議室 授業参観 13:30～14:00	(1)「やさしい」心を育てるために ①城北小学校いじめ防止基本方針について (2)学校がかかえる課題と改善案 報告 (1)6月以降の実践について	学校運営協議会自己評価 実施について依頼 ⇒R5. 12. 1締切
4	令和6年 2月1日 木曜日 14:30～16:00 会議室	(1) 学校関係者評価 ① 本年度の教育活動の説明 ② 学校評価を元にした改善案についての説明 ③ 改善案についての熟議 (2) 来年度の学校経営の基本方針説明 (3) 来年度のCS活動の計画案※CS活動の説明 (4) 学校運営協議会の自己評価 報告 (1)夢育やらまいかCS加算分報告	学校運営協議会自己評価 委員の意見収集⇒学校への 提出締切:R6. 2月末日

- 1 開催日時 令和5年 4月27日（木） 14時45分から16時20分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、高柳 理子、山岸 絵里
中川 智博、森 聖子、清水 裕人、紙上 理恵
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 大野木龍太郎（静岡大学） 山口 朋章（高台協働センター）
井下 俊輔（はままつ青少年の家）
- 6 学校支援コーディネーター
- 7 学 校 山内登志弘（校長）、小嶋 澄華（教頭）、中村 朝実（CSディレクター）
- 8 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 中村 朝実

11 会議記録

司会の小嶋教頭から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 会長の選出及び副会長の指名について

司会から、会長の選出について意見をもとめたところ、川嶋委員から岩井委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。またその後会長に選任された岩井委員から、川嶋委員を副会長に指名する旨の報告があった。

(2) 議長の選出について

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、清水委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。

(3) 学校経営の基本方針説明について

議長の指示により、山内校長から、学校運営方針（グランドデザイン参照）について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・合言葉が「自分から」→「やさしさ」に変わった理由は何だろうか。「やさしさ」は難しい、やさしさと厳しさは似ているところがある。難しい合い言葉に感じる。（川嶋委員）
- ・他者と違う自分、自分と違う他者を子供たちには伝えてほしい。少しの違いを認められずいじめにつながることもあるので、自分がされて嫌なことは人にしないという基本的なことをメッセージに変えることで「やさしさ」につながるのではないか。（森委員）
- ・もっと違いを認められると良い。（岩井委員）
- ・やさしさというのは相手を理解できるか、自分に自信があるか、それが無いと攻撃してしまう。競争についてもいろいろな意見があるが、勝った後、負けた後の教育が大

事。(中川委員)

- ・親としてはまず、学校に行ってほしい。漠然としていても分かりやすい「やさしさ」の言葉は良いと思う。(山口さん)
- ・昔は生き物ががりがあったり動物を飼ったりしていた。花でもいいので何か育てるとやさしさにつながるのでは。(紙上委員)
- ・育てた後に授業でお互いに感想を言い合うのが良いのではないか。いろいろな人がいるんだと気付ける。1年生と6年生のペアで行っても良い。(森委員)
- ・グレーゾーンの子が多い気がする。個性として捉えて解り合えると良いクラスになりやさしさにつながる。(山岸委員)
- ・大人の声掛けが大事。クラスの先生が会議に出られると良い。(森委員)
- ・時代が変わった。昔は明るくハキハキ→今は人と関わらなくても仕事できる。学校も多様性に対応していく必要がある。(中川委員)

協議の結果、全員異議なく、承認された。

(4) いじめ防止等のための基本的な方針について

議長の指示によって、校長から、いじめ防止等のため基本方針について説明があった。

(5) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により、活動内容が確認され、承認された。

その他報告事項等

やらまいかについて

- ・年度初めのことは、2～3月から準備できると良い。学校と連絡を取り合うことが大事。
子供たちから「こうしたい」と意見を出してサポーターと相談して行えれば自分から発信したことが形になったら良いと思う。(紙上委員)
- ・何回も地域に発信させることが大事。決まった事や活動してきた事、考えている事を月1回回覧できたら良い。(清水委員)
- ・年代のギャップがすごい。ペーパーとインターネット両方でやっていくことが大事。(森委員)

司会から、次回会議は、令和5年6月8日(木)14時30分から城北小会議室で開催する旨の報告があった。

(1)「やさしい」心を育てるために

「いのちについて考える日」の実践について

平成24年6月12日、市内中学校生徒の尊い命が失われた。浜松市では、この悲しい出来事を決して忘れることなく、命を大切にしたい教育をいっそう進めていくために、自他の命の尊さを見つめなおす日（いのちについて考える日）を設定し、各学校の実態に合った取組を実施している。

今年度、城北小学校では、次のように計画している。

- ① **6月7日(水)全校朝会「いのちについて考える日」 校長より**
- ② **6月7日(水)帰りの会「いのちについて考える日」 担任より「生命尊重」に関することをクラスの子供たちに話す。**
- ③ **6月5日(月)～9日(金)に行う道徳科の学習は「生命尊重」の内容項目を扱う。**
- ④ **保護者への発信・共有を図るため、各クラスや学年での取組をたよりやホームページに掲載したり、6月28日の参観会で道徳科の授業を公開したいする。**

指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、生命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心になる。例えば、「体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている」「夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる」「おいしく朝食が食べられる」「学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる」などが考えられる。

指導に当たっては、これらの当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証（あかし）」を実感させたい。また、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや、自分の生命に対して愛情をもって育ててきた家族の思いに気付くなど、自分の生命そのものかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。そのことを喜び、すばらしいことと感ずることによって、生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。

■ 第3学年及び4学年

この段階においては、現実性をもって死を理解できるようになる。そのため、特にこの時期に生命の尊さを感得できるように指導することが必要である。例えば、病気やけがをしたときの様子等から、一つしかない生命の尊さを知ったり、今ある自分の生命は、遠い先代から受け継がれてきたものであるという不思議さや雄大さに気付いたりする視点も考えられる。

指導に当たっては、生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人の支えによって守り、育てられている尊いものであることについて考えたり、与え

られた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。あわせて、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情や態度を育てることが求められる。

■ 第5学年及び6学年

この段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。また、様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が生まれ存在すること、生命が宿る神秘、祖先から祖父母、父母、そして自分、さらに、自分から子供、孫へと受け継がれていく生命のつながりをより深く理解できるようになる。

指導に当たっては、家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。

1 令和5年度の取組

(キャリア教育で育てたい力 ♥人とつながる力 ♦自分の良さに気付く力 ◆課題に取り組む力 ♣チャレンジする力)

【徳】みとめ合う子	【体】きたえ合う子	【知】みがき合う子
「ひと・もの・こと」にかかわり、命や心を大切にすることを育てます ♥子どもたちで話し合い問題を解決できる場の設定 ♥相手の気持ちを考えて話すための工夫	進んで挑戦し、最後までやり抜く子を育てます ♦自分の課題を見つけるための工夫 ♣進んで運動に取り組む場の設定	課題をもち、学び合いを通して、よりよく解決する子を育てます ♥考えを深めるための場の設定 ♣学ぶよさやつながりを実感させる工夫

2 自己評価

		児童	保護者	職員
みとめ合う	1. 友達と仲良く過ごしている。			
	2. 明るい挨拶、返事をしている。			
	3. 正しく、優しい言葉を使っている。			
きたえ合う	4. 身の回りの整理整頓や後片付けをしている。			
	5. 外に出て元気に遊んだり、運動したりしている。			
	6. 交通ルールを守って生活している。			
みがき合う	7. 話す人の目を見て話を聞いている。			
	8. 大きな声ではっきりと発表している。			
	9. 正しい姿勢で学習している。			
キャリア教育	10. 自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしている。			
	11. 自分の良さを見付けることができている。			
	12. 身の回りから課題を見付けている。			
	13. 自分を高めるために、めあてに向かって取り組んでいる。			
学校	14. 学校は子供に確かな学力を付けさせようと努めている。			
	15. 学校は子供、保護者の話を良く聞こうと努めている。			
	16. 学校は、保護者、地域の人たちの協力を得て教育活動の充実に努めている。			

3 評価からの分析・考察

4 今後の改善方策

5 学校運営協議会による学校関係評価